

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区麻布台一丁目3-1

為替週間展望＝ドル円はレンジ相場が継続か

〔10月19日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）					
10月12日～10月16日					
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	158.24	158.95(14)	157.55(15)	158.06	-0.25
ユーロ・ドル	1.1195	1.1249(16)	1.1113(14)	1.1237	+0.0037
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	65,324.29	-3706.63	日本10年債利回り	2.930	-0.088
ダウ平均株価	52,177.69	+522.74	米10年債利回り	5.058	-0.180
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 19日 NZ 9月貿易収支
 - 英10月ライトムーブ住宅価格
 - 中国第3四半期GDP
 - 中国9月小売売上高、中国9月鉱工業生産指数
 - カナダ9月消費者物価指数
- 20日 中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート 1年 5年）
 - 独9月生産者物価指数
 - 英9月雇用統計
 - ユーロ圏8月経常収支
 - 独10月ZEW景況感指数
 - 米9月住宅着工・許可件数
- 21日 日本9月貿易収支
 - 英9月消費者物価指数、英9月生産者物価指数、英9月小売物価指数
- 22日 NZ第3四半期消費者物価確報値
 - カナダ9月鉱工業製品価格
 - 米新規失業保険申請件数
 - 米9月景気先行指数
- 23日 日本9月消費者物価指数
 - 英9月小売売上高
 - 独10月製造業PMI速報値、独10月サービス業PMI速報値
 - ユーロ圏10月製造業PMI速報値、ユーロ圏10月サービス業PMI速報値
 - 英10月製造業PMI速報値、英10月サービス業PMI速報値
 - カナダ8月小売売上高
 - 米10月製造業PMI速報値、米10月サービス業PMI速報値
 - 米10月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】原油高によるインフレ警戒感は根強く、米10年債利回りは7日に一時5.36%台にまで上昇しており、ドルは堅調な動きが見込まれる。一方で、日銀の利上げ継続への積極的な姿勢が見られず、円売り圧力も根強いものの、介入警戒感がドル円の上値を抑えている。こうした中、ドル円はレンジ相場が続くとした。

【ドル円はレンジ内でのみ合いが継続】

10月12日から16日にかけては、おおむね157円台半ばから158円台後半での推移となった。原油価格の高止まりがインフレ警戒感につながり、ドルを下支える要因となった。また、この週最大の注目材料である9月の米消費者物価指数の発表を14日に控えていたことから、それまではレンジ相場の様相を呈していた。

12日の海外市場でドル円は158.75円まで上値を伸ばした。サウジアラビアの首都リヤドの空港に対するフーシ派の攻撃を受け、米国が対抗措置に動く可能性が示唆されたことで、中東情勢の緊迫化に伴う原油高からドル買いが優勢となった。もっとも、日米通貨当局による円安けん制への警戒感が根強く、158円台後半では上値の重さも意識された。

13日はロンドン市場で原油相場の反落などをきっかけに157.80円台までドル売りが進んだものの、売りが一服するとその後158.40円台まで反発した。中東情勢への警戒感が根強く、ドルの地合いの強さが継続している。

14日は9月の米消費者物価指数（CPI）が予想を上回る伸びとなり、一時ドル高となった。米10年債利回りが一時5.32%台まで上昇したこともあり、ドル円は158.95円まで上値を伸ばした。ただ、日米通貨当局による円安けん制への警戒感に加えて、米10年債利回りが5.19%近辺まで低下したことから158.05円まで値を崩す場面もあった。

人工知能（AI）インフラ企業コアウィーブの巨額債務や資金調達への警戒感がハイテク株全般への売り圧力となった。この影響でAI関連銘柄から米国債へ資金をシフトする動きもみられ、これが米債利回り低下の背景にある。米CPIの伸びを受けて、次回FOMCでの利上げ確率は発表前の20%前後から一時50%程度まで急上昇したものの、その後は米長期金利の低下を受けて30%程度まで低下した。

15日は東京市場で日経平均が3000円超の急落となり、アジアの株式市場も半導体株を中心に売りが広がったことで、リスク回避の円買いとなり、157.58近辺までドル安円高が進んだ。NY市場では9月の米生産者物価指数（PPI）や米小売売上高などが市場予想を上回る堅調な結果となったことで、158円を回復する場面もみられた。ただ、ドル買いの動きは限定的で、157円台半ばまで下落した。その後は落ち着きを取り戻し、ドル円は158円台を回復している。

【原油価格や米長期金利の動向に注目】

10月19日～10月23日の週に予定される日米の経済指標やイベントとしては、20日の米9月住宅着工・許可件数、21日の日本9月貿易収支、22日の米新規失業保険申請件数、米9月景気先行指数、23日の日本9月消費者物価指数（CPI）、米10月製造業・サービス業PMI速報値、米10月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

引き続き中東情勢や原油価格、米長期金利に左右されやすい展開となりそう。コアウィーブの信用不安によるAI関連銘柄への悪影響や、リスク回避のため安全資産とされる米国債買いの動きなども注目される。米10年債利回りは14日に5.32%まで上昇した後は落ち着きを見せている。15日には5.08%近辺まで低下している。なお、NY原油期近は97ドル台まで上昇しており、これは物価上昇圧力となる。

米消費者物価指数（CPI）や米生産者物価指数（PPI）は市場予想を上回っており、インフレ警戒感は根強い。これはドルの下支え要因となる。コアウィーブの影響による米債利回りの低下はドルの上値を抑えそう。一方で、日米通貨当局による介入警戒感もドル円の上値を抑える要因となる。こうした中、ドル円は一方方向に動きにくいとみられ、ドル円は高値圏でのみみ合いが続くこととなりそう。目先の予想レンジは156.00～160.50円。

【ユーロドルは売り一服から上昇か】

ユーロドルはフランスの財政懸念やドルの堅調などを背景に1.11台前半まで下落してきた。下げが続いてきたことで、売りが一服しつつあり、大きな崩れは見せなかった。1.12ドルを回復する動きを見せている。下げトレンドの途上で上値抵抗線として機能していたボリンジャーバンド1σを明確に上抜いてきており、緩やかに上値を追う展開となりそう。目先の予想レンジは1.1100～1.1350ドル。

ポンドドルは1.31ドル台前半～1.32ドル台後半で推移してきた。ここへ来て、21日移動平均線を回復して、1.33ドル台に乗せてきた。最近のもみ合いレンジを上を抜けており、堅調な推移が見込まれる。目先の予想レンジは1.3150～

1. 3450ドル。

今後の日米以外の経済指標やイベントとしては、19日のNZ9月貿易収支、英10月ライトムーブ住宅価格、中国第3四半期GDP、中国9月小売売上高、中国9月鉱工業生産指数、20日の中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート 1年・5年）、独9月生産者物価指数（PPI）、英9月雇用統計、ユーロ圏8月経常収支、独10月ZEW景況感指数、21日の英9月消費者物価指数（CPI）、英9月生産者物価指数（PPI）、英9月小売物価指数、22日のNZ第3四半期消費者物価指数（CPI）確報値、23日の英9月小売売上高、独10月製造業・サービス業PMI速報値、ユーロ圏10月製造業・サービス業PMI速報値、英10月製造業・サービス業PMI速報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。